

伊丹福音ルーテル教会 主の変容主日礼拝のしおり

2023年2月19日

前奏

招きのことば：詩編 31 編 2-7, 24-25 節

主よ、御もとに身を寄せます。

とこしえに恥に落とすことなく 恵みの御業によってわたしを助けてください。

あなたの耳をわたしに傾け 急いでわたしを救い出してください。

砦の岩、城塞となってお救いください。あなたはわたしの大岩、わたしの砦。

御名にふさわしく、わたしを守り導き 隠された網に落ちたわたしを引き出してください。

あなたはわたしの砦。まことの神、主よ、御手にわたしの靈をゆだねます。

わたしを贖ってください。わたしは空しい偶像に頼る者を憎み 主に、信頼します・・・

主の慈しみに生きる人はすべて、主を愛せよ。主は信仰ある人を守り 傲慢な者には厳しく報いられる。雄々しくあれ、心を強くせよ 主を待ち望む人はすべて。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 (短い黙祷を持ちましょう)

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖靈のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖靈によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖靈を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は何でもおできになる神様でいらっしゃるのに、その栄光も権威も力もお用いにならないで、むしろ低くなつて、しもべのようになって私たちにお仕えくださいました。イエス様が私たちとご一緒にいてくださいます。倒れそうで、恐れでいっぱいの私たちを下から支えてくださいます。私たちはいつも何かを恐れています。けれどもイエス様は「起き上がりなさい、恐れなくてもよい」と言って強めてくださいます。イエス様が私たちに触れてくださるので、私たちは日々安心して、人びとのために役立って生きることができます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 アーメン

使徒書朗読：ペトロの第二の手紙 1章 16-21 節

わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。荘厳な栄光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」というような声があつて、主イエスは父である神から讃れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意していくください。何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

福音書朗読：マタイによる福音書 17章 1-9 節

六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなつた。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆つた。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。イエスは近づき、彼らに手を触れて言われ

た。「起きなさい。恐れることはない。」彼らが顔を上げて見ると、イエスのほかにはだれもいなかった。一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。

讃美歌 316 番

- 1 主よ、試み 受くる折り 祈りたまえ 我がために 心恐れ 惑う時も 愛の御顔 向けたまえ
- 2 世の宝は目を奪い 誉れ 耳を迷わす日 罪なき主の み苦しみを 示したまえ 我が胸に
- 3 煩わしき世のわざにやるせもなき 悲しみに なお潜める御慈しみ 見させたまえ 過たず
- 4 塵より成るうつし身の 塘に帰る今際にも
主よ、御顔を仰ぎ見つつ 行かせたまえ 天(あま)つ家(や)に アーメン

説教：「起きなさい、恐れることはない」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

本日は変容主日という名前のついた礼拝です。イエス様が選抜した弟子を三人お連れになって山に登り、彼らの前で本来のまことの神様としての栄光の姿を現された、という出来事を覚えます。三人のお弟子とはペテロとヤコブとヨハネです。その一人、ペテロは、教会にあてた第二の手紙の中でそのときの感動を書き送っています。イエス様は父なる神様から誉れと栄光をお受けになったまことの神の御子です、私たちは父なる神様がイエス様について「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」とおっしゃった天から響いた声をじかに聴きました。ですから、私たちは作り話をして皆さんのが奮起を呼び起こしているのではありません。ぜひイエス様の栄光と神様からのみ言葉である聖書の語ることをよく思い出して、実践してください、と力説しています。もう一人のヨハネも、その第一の手紙の中で、私たちは初めから御父とともにあった命のみ言葉である御子イエス様が私たちのところにきて私たちと交わりをもってくださったことを聞き、目で見、よく見て、手で触れたので今このようにあなたがたに喜びをもって証しをしています、と書いています。

イエス様の栄光を見た弟子たちはその意味の深さに人生をまったく変えられたのでした。人々が見ていたのはイエス様が人々に理解されず、十字架にかけられて命を絶たれてしまったことでした。けれどもそのイエス様が、私たちのそんな悪い心を赦して新しくするために、実は殺されることを承知で来てくださっていたまことの神様だったことを、イエス様の栄光を見た弟子たちは知ったのでした。

弟子たちはイエス様が聖書をただしく知恵深く語り、愛と憐れみに満ちた心で苦しんでいる人を助ける偉大な先生だと思って、もしかしたらこの方がイスラエルの国を世界を支配する立派

な王国にしてくださる救い主なのかもしれない、というように、感動と期待をもって従つてきました。それで「あなたはメシア、あなたは生ける神の子です」と告白しました。すると確かにそのときの弟子たちはまだ理解できなかったのですが、イエス様はエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者という、当時のイスラエルの指導者から苦しみを受けて殺され、三日目に復活します、とおっしゃいました。しかし、イエス様は期待以上のお方でした。イエス様はまことの神様だったのです。山の上でイエス様のお姿が栄光に輝き、そしてに父なる神様の御声があつて「これはわたしの愛する子、わたしのこころに適う者、これに聞け」と言われました。弟子たちにとってイエス様がまことの神様で、世の救い主だと確信する、これ以上の経験はありませんでした。

イエス様は立派な指導者で賢く優しい方と思っていましたが、イエス様がご自身の神様としての栄光をあらわしてくださったので、弟子たちにわかりました。神様が私たちを見捨てておられないこと、見放しておられないことを知りました。私たちが神様から心離れているのに、神様は私たちを見捨てておられない、見放してはおられないことを知ったのです。

世界は神様によって造られたのに、人は自分中心なわがままな心になって神様から離れてしまい、その結果、生きている意味もわからず、人の間では傷つけ、傷つきながら、互いの目を気にして、自分のわがままを通しつつ、失望とあきらめに生きています。神様が近づいたら自然に物陰に身を隠してしまう狡さや恐れをもった私たちです。バプテスマのヨハネが来て、エリヤのように救い主がこられることを予告しても人々は彼を認めず、好きなように苦しめました。また、イエス様が来てくださったのに同じように苦しめます。しかし神様はそんな私たちを見捨てず、見放さないでいてくださいます。

神様であるイエス様がその栄光を捨てて私たちのところに来てくださって、自分中心でわがままな人々に理解されないで十字架につけられました。そんなおろかで力がないように見える生き方、死に方をされたイエス様がまるで敗北者のように十字架で死んでくださったのは、実は私たちのどこまでも自分中心な幸せを求める気持ち、反射的に自分の人生からまことの神様を排除したいと思う罪深い気持ちを一身に担われた死でした。ご自分の十字架の死の犠牲と復活の勝利によって私たちの自己中心な罪を赦してくださいます。洗礼によってイエス様とひとつにされる私たちは、自分では変えることのできない自分のわがままな心に死んで、私たちの内に神様を喜び、隣人を大切にするような新しい心が生まれ育つようにしていただきました。

自分の暗い心、人にやさしくできないことだわり、後悔に押しつぶされそうな気持、将来に希望を持てないあきらめは、自分の力で変えることはできません。私たちをよい目的をもつて作つてくださった神様から離れているからです。自分で変えることができない心をイエス様は改善してくださるのではありません。むしろ洗礼にあずかるとき、私のかわりにそのような罪深い心に十字架の上で死んでくださった死にあずかります。そして洗礼にあずかったときイエス様の死にあずかっただけではなくてイエス様がよみがえってくださった命にあずかって、私たち

には神様からいただく新しい心が生み育てられます。神様に感謝をして賛美をし、神様と交わることを喜び、神様のみ言葉や聖餐の恵みのもとに生きる永遠のいのちを地上にいる今から味わいます。隣人を大切にし、隣人とともに苦労して、喜びや幸せをつくっていくために生きていく生きがいに目覚めます。自分の内にしつこく生きている古い心が元気にならないように戦いつつ、悔い改めて赦しの宣言を聞いて、神様の赦しといのちに満たされて歩みます。

弟子たちは山の上に導かれてイエス様が神様であるという栄光を見ました。世の中を変えてくれると考えて期待していたイエス様が、それどころではなくまことの神様であって、全人類の罪を赦し、新しいいのちに生きるために来てくださったことを悟りました。それで、山からおりるとイエス様はエルサレムに行かれ、そこで神様の栄光を捨ててぼろぼろになって、恥と呪いの十字架の苦しみを担われること、そのあと三日目によみがえってくださいますが、それは人がすぐに理解できなくても、私たちを見捨てず、私たちを見放さない神様のすばらしい御業であることを悟りました。

目の前で栄光のお姿になられたイエス様は、旧約聖書に出てくるモーセやエリヤという人物とお話をされました。これまで聖書といえばモーセでした。預言者といえばエリヤでした。しかし父なる神様はイエス様を指して「これはわたしの愛する子、これに聞け」と言われました。神様の言葉を聞いて弟子たちは恐れてひれ伏していました。これから父なる神様の御心を知るためにモーセやエリヤの言葉ではなく、モーセとエリヤが待ち望んでいたイエス様の言葉を聞くことだとわかりました。それから弟子たちはイエス様を神の御子、救い主として信じました。十字架と復活というみわざを通して私たちの罪を赦して新しいいのちを与えてくださる方だと信じました。このことをペテロとヨハネはのちに教会にあてた手紙でそれぞれに語りました。私たちも今、このようにイエス様を信じ、罪を赦され、新しい心をいただき、神様を喜び、人を大切にし、自分のわがままに打ち勝つ命を生きています。

私たちは神様に愛されて、イエス様の救いにあずかり、すべての罪を赦されてまったく新しい心をいただきました。ほんとうに素晴らしいことです。大きな恵みです。私たちの人生も変えられました。神様との交わりを喜んでいます。ではそれで終わりでしょうか。いえ、そうではありません。新しい心で私たちは生きていくのです。弟子のひとり、ペテロはイエス様に、わたしたちがここにいて、あなたが神の御子として栄光に輝いておられる姿を見ていることはほんとうに幸いです、といいましたが、その気持ちはよくわかります。ペテロは続いてイエス様にひとつの提案をしました。どうでしょうか、イエス様。もしお望みでしたらモーセとエリヤとあなたがとどまるところとしてここに仮小屋を三つお立てしましょうか。

イエス様のお考えは違いました。モーセとエリヤどころか、次に父なる神様の御声を聞いて、恐れのあまりひれ伏しているペテロたちに、イエス様は静かに「起きなさい、恐れることはない」とおっしゃいました。今日開かれた箇所の続きを読みますと、一同は山から下りました。そして、イエス様は群衆の中に入っていました。そこにある人がどかどかと近づいてイ

イエス様の足元にひざまずきました。自分の息子が癲癇を患って苦しんでいるけれど、弟子たちも誰も助けることができません、と訴えました。静かできよけき山の上とは違い、人々の生活の現場である町の中には問題や苦しみが満ちています。イエス様は「なんと信仰のない時代なのか」と憂い、すぐにその息子を助けてくださいました。弟子たちがイエス様を信じて、しっかりと人々を助けることができるよう、信仰を鍛えてくださいました。そうです、イエス様は山の上に仮小屋を立ててそこにとどまるのではなくて、弟子たちに「起きなさい、恐れることはない」と言われ、ともに下界において、イエス様が神の御子、救い主であられる信仰をもつて、人々の間で生きるようにと召してくださいました。

私たちはここから遣わされていきます。たくさんの苦しみや矛盾に悩み苦しむ人々の間に生かされています。いらっしゃっている人もいます。欲求不満の人もいます。自分の責任を果たそうとしないで楽をしている人もいます。自分の損得ばかりを考えて、自分を守ろうとする人もいます。気持ちの余裕のない人々の間で私たちは生きているのかもしれません。忍耐と希望が必要ですね。皆さんは、お世話になっている方々に心から感謝をしておられますか。迷惑をかけたことに気づいたら素直に謝っておられますか。自分の話を聴いてもらうよりも人のお話を最後までじっくりお聞きになるでしょうか。自分に与えられている時間や才能をよく見極めて、地道な努力をかさねてよく磨いておられますか。自分がどうなったら、どのようにしたら、もっとよく人の役に立つことができるかと考えておられますか。私たちは神の御子であるイエス様の栄光を見ました。イエス様は私たちのために十字架で罪の力を滅ぼしてください、また罪に打ち勝つ新しい心をつくってくださいました。ですから、私たちもイエス様がおっしゃるように、起き上がって、恐れることなく、人びとの間で生きていきましょう。あなたが出会う方々にとって、あなたと歩むことで、心が慰められて明るくなり、正しく生きていこうと励まされるような助けとなつてまいりましょう。弟子たちがイエス様が神様から遣わされた救い主であることを信じて歩むとき、人々とともに幸せをつくっていくことができます。

イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。「起きなさい。恐れることはない。」マタイによる福音書17章7節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讃美歌 344番 献金 献金感謝の祈り

- 1 とらえたまえ わが身を 主よ、みこころ示して 日々まことを教えて、放ちたまえ、罪より
 - 2 **とらえたまえ わが身を、我に宿りたまわば とわの愛を 伝えて 地にみくにを来たらせん**
 - 3 とらえたまえ わが身を、主のみ手にぞ 納めて またき道を開きて 行かせたまえ、御許に
 - 4 **とらえたまえ わが身を、満たしたまえ 御靈を、我が全てを 捧げて 応えまつらん み旨に**
- アーメン

主の祈り

天にましますわたくしの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。わたくしの日用の糧を今日も与えたまえ。
わたくしに罪をおかす者をわたくしが赦すごとく、わたくしの罪をもゆるしたまえ。
わたくしを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
國と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御靈の おお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しうとこしまでも、
豊かにありますように。アーメン

後奏